



図書館だより

Vol.3

令和8年6月発行
第四砂町中学校図書館

日に日に気温が高くなり、蒸し暑く感じる日が多くなってきました。現代では衣替えといえば1年に2回ですが、江戸時代には年に4回衣替えをしていたそうです。冷暖房設備のなかった時代、それぞれの季節に合わせて快適に過ごすためとはいえ、ちょっと大変だったかもしれませんね。



～6月のあれこれ～

11日 学校図書館の日

「学校図書館法の一部を改正する法律」が1997年6月11日に公布・施行され、12学級以上のすべての学校に司書教諭の配置が義務化されました。これを記念して社団法人学校図書館協議会は、この日を「学校図書館の日」と制定しました。



27日 ヘレン・ケラーの誕生日



1歳過ぎにかかった熱病のため、“見る・聞く・話す”ができない三重の障害を負いましたが、家庭教師のサリバン先生と出会って障害を乗り越え、世界各地で社会福祉事業を行いました。

日本には1937年、1948年、1955年の3回訪れ、日本の身体障害者福祉制度の基盤づくりに多大な影響を与えました。

【参考】『図書館ごよみ&イラスト1200』全国学校図書館協議会編、全国学校図書館協議会『ポプラディアプラス人物事典』ポプラ社

◆◆今月のおすすめ本◆◆

ヘレン・ケラーにちなみ、障害者福祉関連の本を紹介

●『ヘレン・ケラーのことばと人生』

関宏之 監修 ポプラ社 289/ケ

「知ること」の喜びがわたしの暗闇を照らした—
をはじめとするヘレン・ケラーの17のことばと、サリバン先生との出会いなどの13のエピソードを紹介。ヘレン・ケラーの人生をたどる本です。

●『虹色のチョーク』

小松成美 著 幻冬舎文庫 57/コ

社員の7割が知的障害者のチョーク会社・日本理化学工業。この会社が“日本でいちばん大切にしたい会社”と呼ばれる理由とは？ 障害者雇用の理想と現実、家族・経営者・同僚の苦悩と葛藤を描いたノンフィクション。



●『ぼくのデフブラらいふ』

門川紳一郎 著 ころから 916/カ

デフブラ=DeafBlind(全盲で全ろう)。目が見えない、耳が聞こえない著者が、アメリカのデフブラと出会ったことで留学を志し、帰国後は当事者が当事者を支援するNPOを立ち上げる。そして、フルマラソンを目指したもののオーバー・トレーニングで靭帯断裂し…そんな「デフブラ」の日常を軽妙に綴った、一味違う“障害本”。